



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

Refinitiv(リフィニティブ)はロンドン証券取引所グループ(LSEG)傘下の金融情報提供会社です

知りたい
投信 なるほど
リッパー

2月までの資金動向

ラップ専用投信から見える流れ

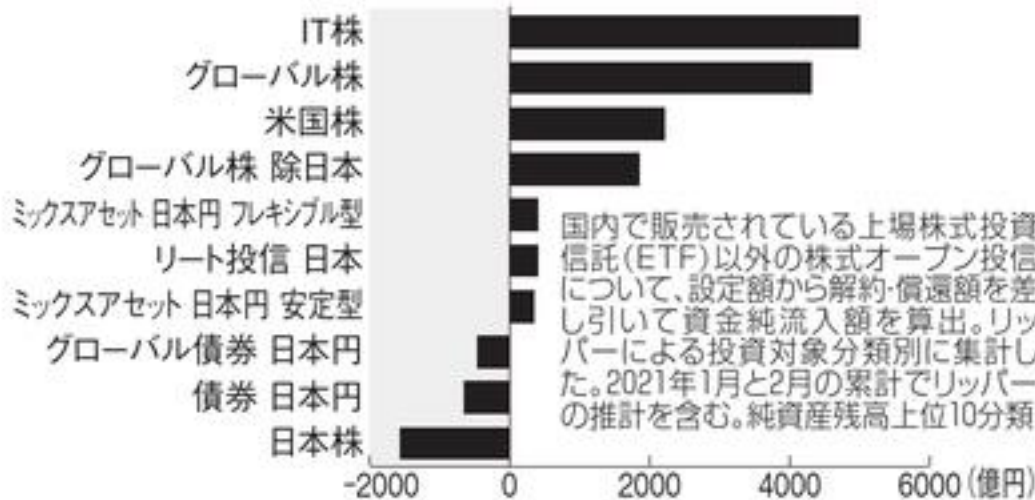
2021年2月、米国のダウ平均株価が最高値を更新し、日本では日経平均株価が3万円台を回復。株式市場の活況を受けて、投資信託市場にも株式型投信を中心に資金が集まりました。

上場投資信託(ETF)を除いた国内で販売されている投信の純流入額は、リッパーの推計で4312億円。流入超過は3カ月連続で、1~2月累計は9958億円の純流入です。

なお、ETFを含めると8178億円の純流入で、14カ月連続の流入超過です。

リッパーの投資対象別分類では、IT(情報テクノロジー)関連株で運用する投信が資金を集め、1~2月の流入累計額トップでした。グラフ。1月まではグローバル株に分類される投信が4カ月連続の1位で、IT株は2位の座を米国株と競っていましたが、2月に躍進しました。

ITとグローバルが人気を集める半面、円建て資産から資金が流出



国内で販売されている上場株式投資信託(ETF)以外の株式オープン投信について、設定額から解約・償還額を差し引いて資金純流入額を算出。リッパーによる投資対象分類別に集計した。2021年1月と2月の累計でリッパーの推計を含む。純資産残高上位10分類

個別の投信では、1~2月にラップ口座専用投信に動きがありました。表。投資対象分類で資金の流出が目立つ日本株と円建て債券は、ラップ専用投信の影響と考えられます。

ラップ口座は投資家が一定の金額を証券会社などに預け、投資を一任する契約です。投資家の運用方針に基づくとはいえ、投資判断は証券会社などに任せています。読者のみなさんは、ラップ専用

投信の動きを「専門家がどのような判断を下したか」という視点で見ると、参考になるでしょう。

ラップ専用投信以外で純流入額上位に入った投信は、テーマがはっきりしたアクティブファンドです。それぞれ「動画配信などの娯楽メディア」「イノベーション」「ESG(環境・社会・企業統治)」に関連する企業の株式で運用する投信。今年前半の目立つ存在となりそうです。

■資金純流出入額ランキング (2021年1~2月)

順位	ファンド名(※はラップ専用投信)	資金純流出入額(百万円)
〈純流入額トップ5〉		
1	※日本超長期国債インデックスファンド(ラップ向け)(三菱UFJ国際)	106,573
2	デジタル・トランスフォーメーション株式ファンド(日興)	101,011
3	グローバル・プロスペクティブ・ファンド(日興)	100,464
4	グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)(アセットマネジメントOne)	83,893
5	※ファンド・マネジャー(国内株式)(三菱UFJ国際)	77,144
〈純流出額トップ5〉		
1	※ファンド・マネジャー(国内債券)(三菱UFJ国際)	-185,669
2	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)(日興)	-25,974
3	※野村日本株インデックス(野村投資一任口座向け)	-11,948
4	※野村ファンドラップ日本株	-11,590
5	※野村ファンドラップ外国債券 Bコース	-11,279

上場投資信託(ETF)を除く株式オープン投信について設定額から解約・償還額を差し引いた。リッパー推計